

bxcjkvert パッケージ

八登崇之 (Takayuki YATO; aka. “ZR”)

v0.4 [2016/11/11]

概要

本パッケージは CJKvert パッケージの改造版であり、縦組と横組の混在が普通に起こりうる日本語組版に適合させたものである。

目次

1	パッケージ読込	1
1.1	フォントリセットに関する設定	1
1.2	ベースライン伸長の補正に関する設定	2
1.3	書字方向の初期値に関する設定	2

1 パッケージ読込

`\usepackage[<option>,...]{bxcjkvert}`

本パッケージは CJKvert パッケージを内部で読み込む。
利用可能なオプションを以下で挙げる。

1.1 フォントリセットに関する設定

CJKvert パッケージは、書字方向変更の命令 (`\CJKhorz` および `\CJKvert`) の呼出の際に、`\normalfont` を実行して現在フォントをリセットする。この挙動は異なる書字方向を混在させる場合には特に不便である。従って、bxcjkvert は既定ではこの挙動を抑止している。ただし `resetfont` オプションによりこの挙動は調整可能である。

- `resetfont=true`: 書字方向命令が現在フォントをリセット (`\normalfont`) する。CJKvert ではこれが既定である。
- `resetfont=false` (既定): 書字方向命令が現在フォントを変更しない。

1.2 ベースライン伸長の補正に関する設定

CJKvert は書字方向変更時に `\baselinestretch` の値に対する補正を行う。具体的には、`\CJKvert` が有効な間はベースライン伸長値が `\CJKbaselinestretch` 倍^{*1}に増大する。ところが、日本語組版に関する限り、ベースライン伸長値を変えるべき理由はどこにもない。従って、`bxCJKvert` はこの機能を無効化している。ただし `usebaselinestretch` オプションによりこの挙動は調整可能である。

- `usebaselinestretch=true` : `usebaselinestretch` オプション付きの CJKvert パッケージと同じ。すなわち、`\CJKvert` 実行時にはベースライン伸長値を `\CJKbaselinestretch` 倍にし、`\CJKhorz` 実行時にはベースライン伸長値を復元する。^{*2}
- `usebaselinestretch=false` : `usebaselinestretch` オプション無しの CJKvert パッケージと同じ。すなわち、`\CJKvert` 実行時にはベースライン伸長値を `\CJKbaselinestretch` の値に設定し、`\CJKhorz` 実行時にはベースライン伸長値を 1 に設定する。(ユーザによるベースライン伸長値の設定は無視される。)
- `usebaselinestretch=retain` (既定) : ベースライン伸長値に対する変更を一切行わない。

※ CJKvert が予め `usebaselinestretch` オプション付きで読み込まれていた場合は、本パッケージの `usebaselinestretch` の既定値は (`retain` ではなく) `true` になる。

1.3 書字方向の初期値に関する設定

CJKvert では初期 (文書開始時) の書字方向は縦組と定められている。本パッケージでは初期の書字方向をユーザが選択することができる。

- `main=true` : 書字方向の初期値を縦組とする。CJKvert ではこれが既定である。
- `main=false` : 書字方向の初期値を横組とする。
- `main=retain` (default) : 書字方向の初期値を何も指定しない。この場合、プレアンブルで `\CJKvert` や `\CJKhorz` を実行することで書字方向の初期値を決めることができる。

^{*1} `\CJKbaselinestretch` の既定値は 1.3 である。

^{*2} ただし、この場合、ベースライン伸長値は「CJKvert パッケージ読み込時に保持されていた値」に戻されることに注意。